

## 伊自良地区（山縣市）

## 【地区の概要と取組みへの経緯】

- 本地区は、山州市の西部の中山間地域、水田地帯も有しているが、代掻き時期には取水困難な状況になる場合がある。
- 伊自良地域には、法人担い手（水稻）が1社存在しているが、多くが個人経営で農地の集積・集約化は進んでいない。
- 農業者の高齢化、後継者不足、農機の買い替えなど農業が続けられない課題が近年生じている。
- 個人間での貸借もあり、実態が把握されておらず、課題解決に向け地区の農業委員と推進委員らが中心となり農業者の集いに参加。

## 取組開始前の状況や課題

- 農地でも平地の優良農地と水管理の不便な農地が存在し、耕作放棄地の増加
- 長年、個人間での口約束による貸借  
⇒実態が把握できていない
- 担い手法人がいるが平地農地の集積希望  
⇒中山間農地が耕作放棄地になりやすい
- 地区農地の5年先10年先の将来について、話し合う機会がなかった
- （有）千洋牧場が自家飼料率向上のため「人・農地プラン」を通して牧草地20haを目標としていた
- H30畜産・酪農機械導入事業で機械リースの助成を受け牧草刈り取り機一式を導入



## 取組内容

- 令和元年8月に藤倉地区の農業者を集め話し合いを行った。地元の水利組合長、農事改良組合長が招集し農業委員、農地利用最適化推進委員が同席した。山州市農林畜産課と農地中間管理機構職員が出席
  - ・市内他地区の農地集積事例の紹介
  - ・農地中間管理事業の説明
  - ・質疑応答
 ⇒以後の相談窓口を「農林畜産課」とし多くの貸付希望を受けた
- 藤倉地区の賃貸話が地区外に広まり、12月に伊自良地域全体で貸し手希望者説明会を開催した
- 伊自良地域内の畜産業の千洋牧場と水田不向き農地の農地中間管理権設定が17haできた。
- 牧草地の賃料と経費は「水田フル活用交付金」を利用し借り手には大きな負担はない

## 【農地中間管理事業申込数：1・2月分】

- ・伊自良南地区 71筆 9.2ha
- ・伊自良北地区 79筆 7.9ha

## 今後の展開と方向性

- 千洋牧場の取組が、不便な農地の活用と耕作放棄地の防止に繋がった。
- 伊自良地域には藤倉地区のほかにも中山間地域の地区があり、このモデル事例が波及つつある
- 将来に向けて畜産、稲作、果樹、施設園芸の分野で各担い手数を増やしてゆきたい

地区の委員を中心とした  
地域ぐるみの話し合い



個別相談・個別対応



農地利用の最適化